

# 日本教師学学会第 23 回大会 プログラム

## 2022 年 3 月 5 日・6 日@オンライン開催（早稲田大学所沢キャンパス）

参加希望者はメールでn.inoue@waseda.jp (井上典之) まで。

### 3月5日（土）【第1日】自由研究発表①・会場校企画

- 13:30～14:00 **オープニングセレモニー**  
**ガイダンス**（「学会の歩き方」:Zoom での参加方法について）
- 14:00～15:20 **自由研究発表①** ⇒【別紙】分科会プログラムをご覧ください。
- 15:30～17:15 **会場校企画**

15:30～16:15 **講演**

テーマ	<b>国際的な視点で教師教育の方向性を考える—イギリスを事例として— World Trends in Teacher Education: the Case of England</b>
講師	Dr. Elaine Wilson（ケンブリッジ大学）
座長	浅田 匡（早稲田大学）
趣旨	教育研究がハードな科学（実証主義的な学問）でありうるか、ということが実践を研究する中で問われ続けてきました。今回は実践者が学習し成長する（transform）ことができる実践研究のあり方、あるいは理論と実践との関係やそのパースペクティブに基づく研究と実践との関係について、国、地域、学校といったさまざまなレベルでの研究や大学等での教育のあり方を踏まえて、実践者教育研究のこれからを国際的な視点で考えてまいります。
16:15～16:30	<b>休憩</b>
16:30～17:15	<b>質疑応答</b>

17:15 1日目終了

### 3月6日（日）【第2日】自由研究発表②・総会・企画委員会企画（シンポジウム&講演）

- 10:00～11:20 **自由研究発表②** ⇒【別紙】分科会プログラムをご覧ください。
- 11:25～11:55 **総会**
- 11:55～12:40 **昼食・休憩**
- 12:40～15:30 **企画委員会企画（シンポジウム&講演）**

12:40～14:10 **シンポジウム**

テーマ	<b>教師学研究の目指すところへ：実践者と若手研究者との対話</b>
話題提供者	杉浦 治之（前浜松日体中学校・高等学校副校長） 中村 駿（武蔵野大学） 前田 菜摘（早稲田大学） 井上 加奈子（熊本保健科学大学）
進行役	西森 章子（広島修道大学）・丸山 裕輔（五泉市立五泉東小学校）
趣旨	「どういう結果になるかわからないから研究を行うのであって、授業や看護も研究だと思います。」（第 22 回大会・会長講演記録より）実践者が実践者であるために、研究者が研究者であるためには、実践の記録を取ることに加えて、実践に基づいた研究を共有可能な「ことば」にしていく（言語化する）必要があります。では実践の言語化に向けて、何が意識されているのでしょうか。また、結果的に何が可能となり、何が問題となるのでしょうか。ここでは、実際に言語化に取り組んでこられたベテランの実践研究者、そして今まさに言語化に取り組んでおられる若手研究者をお迎えし、ご自身の研究について語っていただきながら、「実践をどう意味づけていくか」「その意味をどのように共有していくか」について、皆様と考えていきたいと考えます。

14:10～14:30 **休憩**

14:30～15:30 講演	
テーマ	「リフレクション reflection」という学び—教師を生きる経験を記述する
登壇者	澤本 和子（日本女子大学）
座長	前川 幸子（甲南女子大学）
趣旨	<p>「リフレクション」は、「学ぶ」行為を意味するとは限らないが、授業リフレクション研究で対象とするそれは、教師の学びを意識した研究である。本講演では、授業リフレクション研究が、教師が語る言語を形成し、経験した授業の「事実」を言語化し、それらを明示化する意図を持つことを提起する。主観的とされるリフレクション記述の信頼性や、それを主要データとする研究の妥当性を確保するための配慮と工夫を見いだす 40 年に及ぶ取り組みを、2018 年の学位論文第 2 章から、圧縮して述べようと思う。</p> <p>例えばそれは、自己リフレクションという教師自身の自己内対話や、対話リフレクションや集団リフレクションという他者との対話の手法である。これは実践家（教師）のことばに依拠する研究であり、内面世界の言語化という困難で微妙な課題への取り組みである。村松や芦田の指摘にもある通り、それはことばと自己の間に「すきま」がない状態を目指すことであり、そのための自分の語彙の掘り起こしや創出の営為を必要とする「専門家の探究の旅」といえる。そして、その成果として、藤岡（1999）が見田（1996）を引いて述べた通り、教師自身と子どもや学生を含む探究集団が「美としての情報」を創出し、それと出会うことで、探究の文化と共同体を形成する道がひらかれることも展望したい。</p>

15:30～ クロージングセレモニー

16:00 年次大会終了

**【ご注意】発表内容の撮影、録音、録画等について**

参加者が記録することで問題が発生する可能性がある場合は、大会スタッフより撮影、録音、録画しないよう指示する場合があります。ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。特に指示がない場合においても、参加者が撮影、録音、録画したものを日本国の著作権法が定める範囲以外で利用する場合は、発表者の許可を得てください。